

ヘルパンギーナ・RSウイルス感染症に 注意しましょう！

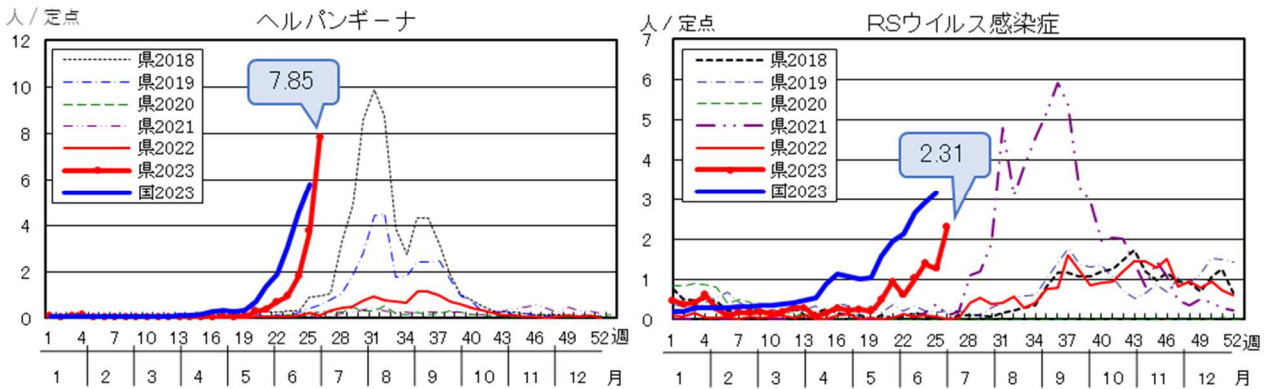
令和5年7月5日
長野県健康福祉部感染症対策課

夏に小児がかかりやすい感染症である「ヘルパンギーナ」と、主に秋から初冬にかけて乳幼児の間で流行する「RSウイルス感染症」の報告数が急激に増加しています。

今後、さらなる感染の拡大が懸念されますので注意しましょう。

《長野県内における発生状況》

県内の小児科定点医療機関（54か所）から、6月26日～7月2日（第26週）に報告された「ヘルパンギーナ」の報告数は定点あたり7.85人で、流行警報レベルの基準値6.0人を超えています。また、「RSウイルス感染症」は2.31人となっており、「ヘルパンギーナ」、「RSウイルス感染症」ともに例年より早い時期での流行が見られます。



《ヘルパンギーナとRSウイルス感染症の特徴》

	ヘルパンギーナ	RSウイルス感染症
主な症状	急な高熱、咽頭痛、口の中にできる1～2mmの小水ぼう、食欲不振、全身倦怠感など	発熱、鼻汁、咳、咽頭痛など(風邪様症状) 細気管支炎、肺炎など重症化する場合もある
原因となる病原体	コクサッキーウイルスなど	RSウイルス
感染経路	飛沫感染、接触感染、糞口感染	飛沫感染、接触感染
潜伏期間	2～4日	4～6日
その他	症状が治まった後も患者の便には3～4週間程度ウイルスが排泄されるので注意 脱水症状にならないように、水分をしっかりと取りましょう	乳児期早期(生後数週間から数ヶ月間)に初感染した場合は重症化しやすいので注意

※「ヘルパンギーナ」は、「手足口病」、「咽頭結膜熱」とあわせて夏に小児がかかりやすい「夏かぜ」と呼ばれるものです。

感染予防のポイント

- 石けんと流水による手洗いをしっかりと行いましょう。
- 集団生活ではタオルの共用は避けましょう。
- おむつの交換などは、排泄物を適切に処理し、しっかりと手洗いをしましょう。
- 咳などの症状がある場合は咳エチケットを心がけましょう。